

南区社会福祉協議会は、誰もが住みなれた地域で安心して暮らしていくために、ボランティア、福祉・保健関係者や行政の協力を得ながら地域の福祉活動を進め、またその活動を応援する組織です。

災害時の支援体制構築に向けて ～南区災害救援ボランティアネットワーク(サブネット)の取り組み～

東日本大震災をはじめとして、昨今、全国で台風、豪雨、竜巻などで大規模災害が頻発するようになっていきます。

もし私たちの南区で大災害が発生した時、南区社協は南区役所の要請に基づき「南区災害ボランティアセンター(災ボラセンター)」を立ち上げます。災ボラセンターは行政及び区内の地域防災拠点と連携し、全国から駆け付けるボランティアの力を借りて被災者支援と地域の復旧に当たります。この時、災ボラセンターの運営を中心になって担うのが「南区災害救援ボランティアネットワーク(サブネット)」です。



災害ボランティアセンターの役割

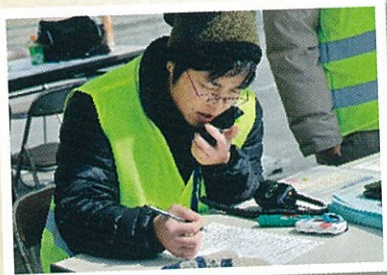
- 横浜市災害ボランティア支援センターを通して、全国から駆け付けるボランティアを受入れます。
- 地域防災拠点からの要請に応じてボランティアを派遣します。
- 地域防災拠点を通さずに直接センターに寄せられる要請にも応じます。(在宅被災者など)
- 行政、各地域防災拠点等と連携し、区内の被災情報を収集し支援活動に役立てます。

サブネットの日頃の活動

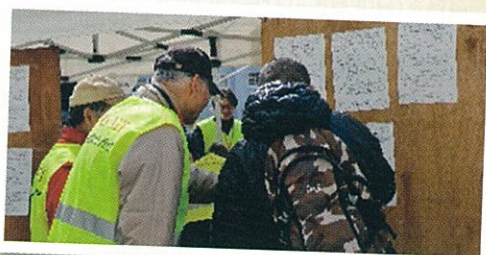
いざ災害が発生した時、こうした役割を果たせるようサブネットは日頃から以下のような活動を行っています。

- 災ボラセンター運営マニュアルの作成と検証、改定
- 災ボラセンター運営の模擬訓練(シミュレーション)実施
- 地域防災拠点が実施する防災訓練への参加と連携
- 防災に関わる地域情報の収集と整備
- 防災に関する知識・技能の向上

写真は、災ボラセンター運営の模擬訓練の様子



無線機を使って防災拠点、区役所と情報交換



貼り出されたニーズ表を確認するボランティア



現状ではメンバー数が大変不足しています。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

問合せ 南区社会福祉協議会 TEL260-2510



● 地区社協活動をご紹介します ●

～子どももおとなも、みんなで楽しく健康に～

みんなの健康づくり事業 (太田地区社会福祉協議会)

太田地区社協と太田地区連合が主催する「みんなの健康づくり事業」は、地域住民の健康づくりと交流を目的に昨年度から開催されています。

今年度は南太田小学校の体育館にて全4回の開催を予定しており、第1回目となるこの日は、インストラクター二人を招き、「走り方教室」が行われました。15名程の親子が参加され、音楽に合わせて脳を活性化させるリズムカルなトレーニングからスタート。ラダーやハードルを使用して、走るための正しいフォームを身につけ、最後は体育館全体を使ってリレーをして終了となりました。

「リレーの選手になりたい」「もっと早く走りたい」と目標を持って参加した子どもがほとんどで、「楽しかった」「気持ちよかった」との感想。一緒に参加された保護者も、運動不足の身体には程よい運動のようでさわやかな笑顔が見られました。「この事業をもっと多くの人に楽しんでもらえるように継続的に実施していきたいが、そのためには多くの方の支援が必要です」と、スタッフは言います。

地域の民生委員や学校等が協力して開催したこの事業。子どもたちが目をキラキラさせ、集中して学んでいる姿が印象的でした。



次回開催：9月28日(日)12時15分～13時30分
内 容：太極拳入門編

～地域デビューのきっかけに～

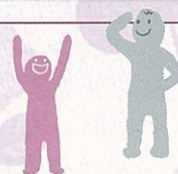
ゼミナール男塾 (別所地区社会福祉協議会)

別所地区社協が主催する「ゼミナール男塾」は、地域のちょっとしたボランティア活動に参加するきっかけになればと、平成26年度より新たに企画された講座です。当初は男性向けに企画しましたが、簡単な調理のレシピを学んだり、散策をしながら地元の歴史の説明を聞いたり、男女問わず楽しめる多彩な内容になりました。

第3回目となるこの日のテーマは「介護の悩みいろいろ…」。30名程が参加され、白朋苑地域包括支援センター職員から介護保険の仕組みやサービスの使い方、施設の選び方などについて話がありました。参加者からは「いざ介護が必要となった時に、どこに駆け込めばいいのか」といった質問や、「家に帰ってからも、配られた資料を読んで勉強したい」というコメントもあり、介護を身近な問題として捉えていることがうかがえました。

参加者のひとは、「毎回趣向が違い、大変興味深い。普段できない体験もさせてもらっている。」と男塾の講座内容に大満足の様子。事務局も「これからも新たな企画をとおして、地域活動に参加する仲間を増やし、安心安全なまちづくりをさらに進めていきたい」と言います。

「まずは地元を知る」「自分のできることを増やす」、このような取り組みなら私も参加してみたいと思わせてくれる内容でした。



南区社協からのお知らせ

平成 25 年度 南区社会福祉協議会事業報告



第 2 期南区地域福祉保健計画（平成 22 年～ 27 年）は、推進 4 年目を終え、取組みが一層進んでいます。なかでも、地区別計画においては、子どもを対象としたサロンの開設が進み、様々な世代の人が地域活動に関わるようになりました。また、テーマ別（対象別）計画においては、部会と地域、団体が連携して取組んだ結果、障がい児者や家族が地区社協と連携して、障害児者避難スペースづくり体験等を実施したり、障がい児者の親のグループが障がい理解を深めるための出前講座を地域で実施したりして、部会と地域、団体の連携が進みました。

16 地区社協では、推進地区を 2 地区指定し、永田みなみ台地区では「永田みなみ台地区見守り隊」を組織化し、地域の見守り体制の構築に向けて支援しました。また、井土ヶ谷地区では、ちょこっとボランティアの活動を支援し、担い手育成に向けて取り組みました。

I ▶ 福祉・保健のまちを支える担い手をみんなで育てよう

【担い手育成】

- (1) 人材育成のための研修の実施
- (2) テーマ別、対象別ボランティア講座の開催

II ▶ 身近なまちの福祉保健情報をわかりやすく、みんなに発信しよう

【情報発信】

- (1) 広報紙「社協みなみ」発行やホームページ運営
- (2) 情報共有・発信の仕組み構築

III ▶ 身近なまちにつどい、みんなが活動する場を広げよう

【活動の場づくり】

- (1) 子育てサロンの開設や運営の支援
- (2) 高齢者や交流を目的としたサロン、食事会などの運営支援

IV ▶ 身近なまちの支えあい・ネットワークをみんなで創ろう

【ネットワークづくり】

- (1) 地域支えあいネットワークの運営支援、地域ケア施設の地域交流事業の支援
- (2) 各種連絡会との連携や情報交換

V ▶ 身近なまちの生活課題に応えるサービスを充実しよう

【身近なサービスの創造】

- (1) 地区社会福祉協議会支援
- (2) 南区地域福祉保健計画の推進

VI ▶ 災害時に要援護者をみんなで支えよう【要援護者支援】

- (1) 災害救援ボランティアネットワーク（サブネット）会議の開催
- (2) 南区障害児者団体連絡会防災部会等への支援

収支決算概要

(単位：円)

	収入額	支出額	収支差額
一般会計経常活動	80,596,884	77,369,524	3,227,360
特別会計経常活動	15,698,151	16,447,362	△ 749,211
合 計	96,295,035	93,816,886	2,478,149



ひとりひとりの‘あたたかい気持ち’が‘南区の福祉’を支えています

赤い羽根 共同募金

10月1日▶12月31日



民間保育園やグループホームの施設整備費として



子育てサロン、家事介護、高齢者支援をする団体の活動費として



高齢者や障がい者の送迎車両購入費として



第 9 回レインボーフェスタ☆みなみ

地域住民と社会福祉施設、学校等の地域交流まつり。和太鼓などアトラクション、模擬店、フリーマーケット、認知症啓発コーナーなど。楽しいひと時をお過ごしください。

【日 時】 9 月 27 日（土）10 時～ 14 時

【場 所】 どんとこい・みなみ、中村地区センター、
中村特別支援学校、中村小学校

【問合せ】 どんとこい・みなみ 担当：下川原、中根

【電 話】 264 - 2866 【FAX】 264 - 2966

善意銀行寄付者

(H26年4月1日～6月30日) ※敬称略、順不同

- ・ 資源循環局南事務所
- ・ 手芸ボランティアすずらん
- ・ 井土ヶ谷下二ちとせ会
- ・ 辻 稔
- ・ 松田 トキ／三城 三千子
- ・ 明るい社会づくり運動南区協議会
- ・ 田代 美登裡

THANK You

編集委員紹介（五十音順）

相澤君夫／池田昭太郎／大八木綾子／栗田一伸／末永寿美子／並木慎一

※「社協みなみ」の発行費は、共同募金配分金を活用しています。※

ポラび!!

no.21

「ポラび!!」のびは
 ピッピッと感じるアンテナ
 ピースのび
 ぴかいちのび
 Pit inのび
 それから...

南区ボランティアセンター
 南区浦舟町3-46 浦舟複合福祉施設8階
 Tel. 260-2531 Fax. 251-3264
 ◆開館：年末年始をのぞく午前9時～午後5時 ◆
 (日・祝祭日も開館しております)

南区ボランティア連絡会研修会

地球は生きている、海より地球を知る

～海洋研究開発機構 (JAMSTEC) 見学～

6月17日、昨年に引き続き防災をテーマに、海洋研究開発機構(JAMSTEC)を見学し、科学技術を通じて自然環境のメカニズムについて学びました。

日本は四方を海に囲まれ、広大な領海と世界で六番目の排他的経済水域を有します。太陽の光も電波も届かない深海は、人類未知の領域であり、多くの生命やエネルギー・レアメタルなどの豊富な資源が存在し、地球の謎を解く鍵が眠っているとされています。海底を掘削しマントルまで到達可能な地球深部調査船「ちきゅう」、深海6500メートルまで潜水可能な有人潜水調査船「しんかい6500」がその調査の任に当たっています。

最近ネットワーク化され収集した大量のデータをコンピュータで四六時中計算処理をし、様々な現象を再現、仮想的に予測を行っています。多くの研究において理論の証明や実験再現に用いられている手法で、身近なシミュレーションとしては天気予報があります。スーパーコンピュータ「地球シミュレータ」も、今世紀末までの「世界各地の年平均気温分布の予測」(地球温暖化現象)や国内二十ヶ所の海底観測地点をネットワーク化し送られてくるデータを計算処理・分析して、将来は「緊急地震速報」地震・自然災害防災等に活かされるように開発を進めています。

水深1000M圧力実験。100気圧は一センチ四方に100キロの加重に相当します。カップ麺カップを使つての実験では100気圧を加圧するとカップの気泡組織が壊れ、加圧以前に比べて約1/3に縮小しました。シミュレーションとは異なりビジュアルな実験の為にこの時は「指先を100キロで潰されたら痛いよ!」「カップがお猪口になっちゃった。」などの声が聞かれました。なお、実験に使用したサンプルは浦舟複合福祉施設8F トモニに展示しています。

JAMSTECの中庭では、自然環境のシミュレーションとは裏腹に、カルガモが羽根を休め雀・鳩が水浴びをしてトンボが飛び廻る、のどかな光景が見られました。地球の未来を見つめ、より住みやすい世界にするために多くの科学者が研究に携わっています。我々はその研究成果を気がつかないうちに身近で利用しているのかも知れません。



ポラメイト

南区内で活動するボランティア仲間(メイト)を紹介します

点訳グループ「もみじ」 代表 飯田敏子

「手のぬくもりと心通う」プライベートサービスとして、視覚障害の方へ点字点訳を提供しているグループです。

今年で発足19年目になります。メンバーも男性が増え、適切なアドバイスと責任感で会を支えてくれています。

活動内容は、知って得する話題の情報提供、日常生活に役に立つレシピ、時刻表、歌詞カードや雑誌の点訳など、どのような内容でも「一人を大切に」と心がけ、依頼はすべてお受けすることをモットーとしています。点訳をご希望の方は、お気軽にご連絡ください。お待ちしております。

また、南区内の地域ケアプラザには、そのケアプラザの機関紙の点字版が常設されていますので、ぜひご一読ください。

点訳の依頼、活動に興味のある方は、
 毎月第2・4火曜日10時～12時
 大岡地域ケアプラザでの定例会
 または、南区ボランティアセンターへ



「みなみの里サロン」リニューアルオープン!

高齢者の皆さんが集まって食事やおしゃべりを楽しむ「みなみの里サロン」。体操の時間もあり、心も身体もリフレッシュする一日です。

8月を除く毎月第3金曜日11:00～15:00に、大岡地域ケアプラザで開催し、参加費はお弁当代、おやつ代込みで700円です。どなたの参加も歓迎します。



南まつり ～ミニボランティアセンター開設～

今年も南まつりで、南区ボランティア連絡会、南区災害救援ボランティアネットワーク(以下サブネット)、南区社会福祉協議会が協力して、ミニボランティアセンターを開設しました。車いす、アイマスク、手話、点字の福祉体験コーナーの開催、サブネットの活動PRをはじめ、さまざまなボランティア情報の提供とボランティア相談の受付をしました。



ボランティア入門講座

「はじめの一步」をここからスタートしませんか?

*日 時：11月15日(土) 午前10時～12時

*場 所：トモニ(南区福祉保健活動拠点)



ポラび掲載内容の問い合わせ・申込みは
 南区ボランティアセンター TEL.260-2531